

山梨県がん対策推進協議会各委員
山梨県福祉保健部健康増進課がん対策担当

山梨県第3次がん対策推進計画目標達成に向けて
2020年度の若尾意見とお願い

医療従事者の皆様、行政の皆様におかれましては、予期せぬ新興感染症の蔓延のため、限られた資源・人財の中での奮闘に心より感謝と敬意を表します。

このような大災害にも等しい環境ですが、がん対策の手を緩めるわけにはいきません。むしろ、COVID-19の罹患を恐れ、がん検診を控えてしまうことや、受診の機会を放棄してしまうこと等による県民の損失を埋めることも大切な施策になっていくと思われまます。これらの視点を含め、以下の点についてともに考えていただけるとありがたいです。

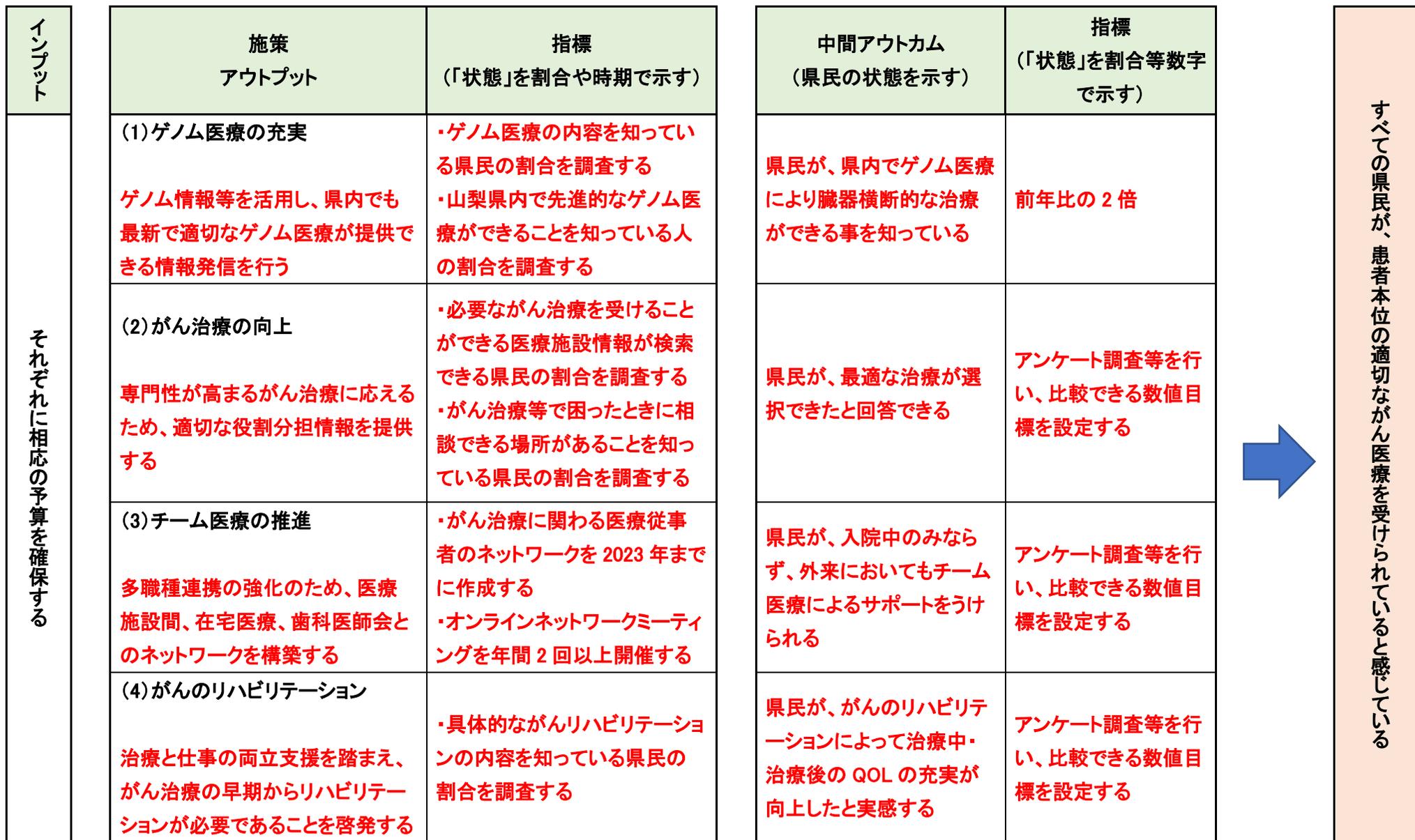
1. 開催形式をオンラインまたは感染症対策をした上でのリアル開催にすること
2. 昨年も意見として述べた事項だが、アクションプランには以下に示す『ロジックモデル例』を参考にした数値目標を入れること¹
3. 現時点で数値にしづらいものは今後も担当者が変わったとしても数字で評価できるようアンケート調査（県民意識調査）等を行うこと²
4. がん診療連携拠点病院指定の変更を機会に、医療施設の役割分担を県民に見える化すること
5. がん治療はかつてないスピードで進化している中、新型コロナ対策とは別の重要な対策として予算をかけて行うこと
6. 義務教育となった「がん教育」は、どこに住んでいても一定の内容が理解できるような状態にするため、文部科学省の推進する「がん教育」を参考にし、山梨県教育委員会と健康増進課等が連携し、設置母体が違う小学校・中学校・高等学校の教育基準がそろえるような体制を整備すること
7. 職域での「労働安全衛生法に基づく定期健康診断」に頼らず、女性特有のライフステージにあった検診ができるよう連携し、精度管理においても基礎自治体のがん検診との整合性をとること

以上

¹ 本計画のあるべき姿を念頭において、その姿を達成するための分野別アウトカムを明確にし、時系列の中で評価できる形式にする必要がある。例えば、本計画の最終アウトカムは、『がん患者を含めた県民が、がんを知り、がんの克服をしている状態』を指す。つまり、2023年時点で、このように感じることでできる県民がどれくらい増えたかがわからないとPDCAサイクルをまわすことができない。そこで、迅速に現時点のがん対策に関する県民意識調査が必要となる。この調査を行うことにより、分野別アウトカムの比較も可能となる。以下に分野別アウトカムとして「患者本位のがん医療充実」例を示す。

² 脚注1で示したロジックモデルでの評価に使用するための項目で作成した県民意識調査

【ロジックモデル参考例】分野別施策「患者本位のがん医療充実」：山梨県民が、患者本位の適切ながん医療を受けられる体制整備



<p>(5) 支持療法の推進</p> <p>がん治療に関わる医療従事者が、支持療法の情報を共有できる機会を設定する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・がん治療による副作用・合併症・後遺症で生活の質が落ちたと感じる県民の割合を調査する ・がん治療による副作用・合併症・後遺症等に関する相談支援の場があることを知っている県民の割合を調査する
<p>(6) 希少がん・難治性がん対策</p> <p>県内の希少がん診療の集約化を2023年までに行い、国の希少がんセンターとの連携を行う</p>	<p>「希少がんホットライン」の存在を知っている県民の割合を調査する</p>
<p>(7) 小児・AYA・高齢者のがん対策</p> <p>それぞれ特有の治療環境が必要な事に加え、患者数の少ない世代のがん治療であるため、県内での連携を強化し、県外にある専門施設との連携情報を共有できる場を定期的に設定する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小児がんネットワークを設定する ・AYA世代ネットワークを設定する ・高齢者対象のがん治療ネットワークを設定する
<p>(8) がん登録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん登録によって得られた情報を活用することによって、がん対策を評価する ・県民に適切な情報を提供するために、がん登録によって得られた 	<ul style="list-style-type: none"> ・がん計画の数値目標に活用できなかった割合をゼロにする ・医療施設ごと、部位ごと治療内容ごとの患者数を登録数で表記できない割合をゼロにする

<p>県民が、がん治療等における副作用や合併症・後遺症等でQOLが保たれていると実感する</p>	<p>アンケート調査等を行い、比較できる数値目標を設定する</p>
<p>県民が、希少がん・難治性がんに対する精確で最新の情報に素早くたどり着けている</p>	<p>アンケート調査等を行い、比較できる数値目標を設定する</p>
<p>県民が、小児・AYA・高齢者層のがん対策は成人がんと異なることを知る</p>	<p>アンケート調査等を行い、比較できる数値目標を設定する</p>
<p>県民が、治療等を選択するときの情報源としてがん登録から得られた情報を利用できている</p>	<p>アンケート調査等を行い、比較できる数値目標を設定する</p>



情報を、県民が必要とする情報として公開する

